

カシワマイマイ

札幌にしては珍しい10日以上も続いた長雨がやっと終わりかけた気配で澄川に参加しました。2014年6月19日、バスの終点から森まで歩くのですが、路傍のミズナラやクリの葉に毛虫がやたらと目につくのです。澄川の基地まわりではさらにひどく、先日、種を採集したハルニレの大木の葉も無残に被害されていたり、ミズナラが葉を食いつくされていたり、ケヤマハンノキもたかられているし、この毛虫は偏食性ではないようでした。物置の壁一面に大小さまざまな多数の毛虫が蠢いていました。蛹になる場所を求めて進入してきたようでした。毛虫の写真を撮りまして帰宅して最近買い揃えた「イモムシ」ハンドブックで調べまして、カシワマイマイの幼虫たちであることが判明しました。



ネットでカシワマイマイを検索しますと、出るわ出るわ全国的に大発生している様子なのです。札幌市も詳しい情報を流して警告を発していました。成虫の蛾はよく見かけるのですが、幼虫も独特な様相なので、一度覚えると忘れることはないでしょう。頭と尻に2本の角が出ているように見えるのですが、硬いものではなく毛の束なので傷つけられることはありませんが、いかにも触ると刺されるような気配なので、すごく嫌らしいのです。毒毛虫ではありませんが、毛虫アレルギーの人は見ただけで皮膚に異常を来たすこともあるとか。虫にも理解があるつもり私ですら、大群が蠢く様子には近づきたくはありません。



成虫♀

天敵はウイルスのみとか、鳥たちが餌として消費する量を遥かに凌駕する発生量とかで、ましてや人間の駆除体制なんぞは螻蛄の斧のごときものらしいのです。わが手で10匹や20匹潰したところで何の影響も及ぼさないのです。ただ、3年ばかり続くとウイルスが発生して沈静化すること。いずれにしても自然に任せるしかないのが現状のようです。

マイマイガの仲間たちは入れ替わり立ち代り大発生するようで、自然の摂理とはいえ、神様も変なことをしてくれるものであります。